

(2) 施策の方針

第4章 健やかで心豊かに暮らせるまち

分野(2) 子育て

施策の方針② 子育て支援施設の整備

<目標とすべきまちの姿>

子ども会館や子育て支援センターなどの子育て支援施設の充実により、すべての子どもたちが健やかでのびのびと成長できる環境が整っています。また、保育施設の整備が進み、待機児童数が減少しているとともに、子どもの家(学童保育)の利用者数の増加に対応した施設の整備が図られています。

1 事業評価結果一覧表

こどもみらい部

評価対象事業名		決算値 (千円)	総事業費 (千円)	26年度 職員数 (人)	今後の方向性	
整理番号	事業名				事業内容	予算規模
こども-06	私立保育所等整備事業	133,994	142,036	1.0	a	C
こども-07	子ども会館・子どもの家整備事業	1,242	5,263	0.5	b	B
こども-08	公立保育所整備事業	102,917	113,371	1.3	b	B
こども-22	子ども会館・子どもの家整備事業	10,238	27,745	2.2	a	A

2 平成26年度末の目標

こどもみらい部

腰越子ども会館・子どもの家の建替え及び子育て支援センターを併設する(仮称)玉縄こどもセンターとして岡本保育園の建替えを推進する。子育て支援センター及び障害児放課後余暇施設を併設する(仮称)由比ガ浜こどもセンター建設の推進する。平成27年4月から子ども・子育て支援新制度が導入されることから、子ども会館・子どもの家における円滑な運営を図るため、施設整備や職員の処遇等の見直しについて検討していく必要がある。

3 平成26年度の取組の評価

こどもみらい部

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

腰越子ども会館・子どもの家の建替え、(仮称)玉縄こどもセンター及び(仮称)由比ガ浜こどもセンターの建設を推進したが、関係各課との連携不足等が原因で、腰越子ども会館・子どもの家の建替えの着工及び(仮称)玉縄こどもセンター建設の着工が遅れたことから、関係各課とより緊密な連携を図りながら、事業の確実な推進に努める必要がある。子どもの家(学童保育)の需要の増加に対応するため、教育委員会、学校の協力を得て、深沢小学校内に放課後新たに教室を借受け、待機児童の解消を図った。また、山崎子どもの家及び大船子どもの家については敷地内に増床するための手続を進めた。

4 今後の方向性

こどもみらい部

(仮称)由比ガ浜こどもセンターの建設等について、重要で緊急度が高い事業であることから、関係各課とより緊密な連携を図りながら、事業の確実な推進に努める。

岡本二丁目用地の活用については、平成26年度に策定した岡本二丁目用地活用基本計画の方向性に沿って、子ども・子育てや市民活動に関する機能を導入することから、こどもみらい部が中心となって、施設整備の基本計画としての考え方を加味したうえで、基本設計、実施設計へと計画の熟度を高め、市総合計画実施計画事業として位置付け、施設整備の早期実現を目指す。

「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、平成31年度までに学童保育のニーズ量を確保するため施設整備を計画に進めていくとともに、学校を活用した放課後子ども総合プランの実施について教育委員会、学校等と連携し、検討を進めていく。

5 平成27年度末の目標

こどもみらい部

腰越子ども会館・子どもの家の建替え及び子育て支援センターを併設する(仮称)玉縄こどもセンターの建設の完了。

大船及び山崎子どもの家の増床の完了。

学校から距離がある西鎌倉及び岩瀬子どもの家については、学校を活用した放課後子ども総合プランの導入等、教育委員会、学校等と協議を進めていく。

子育て支援センター及び障害児放課後余暇施設を併設する(仮称)由比ガ浜こどもセンターの着工。

岡本二丁目用地の施設整備の基本計画の策定。

鎌倉市民評価委員会の評価

1 評価できるところ

- ・待機児童解消に向け、公・私立の保育園の定員の増、また保育士の弾力的配置、認可、認可外保育所の助成等で待機児童が減少していること。
- ・子育て支援センターと保育園のある玉縄こどもセンターの建て替えは、育児支援を総合的に行う機会として期待する。
- ・子育て支援センターと障害児放課後余暇施設を併設する由比ヶ浜こどもセンターの建設に合わせて、支援の内容充実を期待する。
- ・保育所整備、子ども会館・子どもの家整備等待機児童対策、子どもがのびのび成長できる環境づくりが進められている。

2 課題・提言

- ・保育園は整備されてきているが、卒園後に利用する子どもの家のニーズ確保に努めてほしい。
- ・子育て支援のハード面である施設の整備が充実しているが、支援内容の充実を図らなければ活用できない。ニーズに合ったものになるよう努力してほしい。
- ・西鎌倉、岩瀬の子どもが学校から距離があるため、学校を活用した放課後プランを検討しているとのことで期待したい。
- ・待機児童は施設整備を進めても潜在需要が顕在化するため、なかなかなくなる。今後の施設整備のあり方を検討することが必要である。